
春の大セミナー2017

5 t h D テーブル 2 総評



文責：渡辺（明治4）、岩崎（青学4）

～ 目次 ～

① 議論の流れ b y 岩崎（青学4）

② 個人総評 b y 渡辺（明治4）

③ 全体へ

① 議論の流れ 文責：岩崎（青学４）

本テーブルは、政府の方向性を《臓器移植を禁止する》方向に変えたいという磯貝のオピニオンシートに沿って議論が行われた。

議論の初盤から各々コンパリソンを視野に入れた質問が主に溝口、塚越から積極的になされ、各々のコンパリソンにより議論を深めたいという意識は共有されているように思えた。テンポよく議論は進んで行き、ASQ のエリアでは、主に Harm や AD の定義の確認や浸透が行われた。

・ 能戸のNFC アーギュメント

「脳死者家族の後悔のような精神的苦痛は、APA でもなくなる余地がない」といった内容の主張が展開された。

後悔のコンテンツが政策施行により変化することから、磯貝と溝口により双方の違いを提示すれば DA として認められるのだろうか？といった疑問が投げかけられ、能戸の意図が、TG 目線での違いを確認したことであることが引き出された。

溝口の質問により All TG が政策施行後において後悔を抱えることを立論することができないため、提案に乗る形で AD の立論の後意見があることが共有され、次に進むこととなった。

・ 下吉のpraca アーギュメント

「日本政府の臓器移植に対する目的は命を救うことであり、よって今回の政策は起こり得ない」といった内容の主張が展開された。

というのも、日本政府は病院の設立など国民の命を最大限救う方向性を持っているが、現状の方が命を救える確率が高いためプラカがないといったものであった。

磯貝から、現在積極的安楽死が存在し、日本政府の方向性は必ずしも命を救うことではないのではないか？といった疑問が提示された。その後、溝口から例外となりうるエグゼプションを確認した上で、プラカがないかどうか結論をとろうといったプロシが引かれ、中絶の例が例外となりうる主張が提示された。磯貝のエビデンスもサポートし、例外を受け入れることにより収束した。

・ 石橋の提案

この時点で残りの時間が 1 時間を切っていたことから反論をオミットする形でそもそも臓器移においてどのような人を救うべきなのかディレクションコンパリソンをしようという提案が提示されたが、溝口、塚越の介入により DA として出されることになった。

磯貝がAD を立論した後、再び能戸の意見が確認された。TG 同士の比較をすることにより、

TG の精神的苦痛を助けられるのかどうかを結論をとろうという提案がなされたが、磯貝により DA として選べたらもう一度その話をするという提案を受け入れる形で収束した。その後、DA の質疑応答の最中で春セミ最後のディスカッションが終了した。

② 個人総評 文責：渡辺（明治4）

春セミお疲れ様でした！！

僕からは個人総評の方を書かせてもらいます。

1 位 溝口（法政3）

圧倒的介入量をもって議論を進める中心的な役割を担っていた点を評価し1位とした。他人の意見を利用した介入をし話を進めていく技術や、自分の話す時間に持っていく技術は圧倒的でほとんどの話を溝口の発言でまとめ終わらせている印象を持った。溝口（法政3）のディスカッションはかなり完成度が高い印象があり正直技術面などで特にいうことは無い。その上であえてアッセンに向けてのアドバイスというより個人的な期待としては、話す時間を自分に持ってくるだけでなく好きな時に意図した相手に話を振っていく技術覚えていてもらいたい。そして自分で話をまとめ終わらせる技術も今より寄り活かしてテーブルを意のままに操り議論を作り上げテーブルとして答えを得る様を見てみたいものである。試ジャッジの結果も示している通り実力は上の人達にも劣らないと僕自身思っているのでアッセンブリーでのリベンジに期待している。

2 位 磯貝（立教3）

オピニオンプレゼンターとして議論の土台を作ったこと、そして溝口と同じく議論を進める役割を担っていた点を評価し2位とした。1位との差としては溝口（法政3）は主に塚越（青学3）などが行う QC なども利用して介入していたのに対して、自分発信の介入しかなかった点にある。NFC の能戸のアイデアに対する介入など他人のアイデアに対するトリートは溝口（法政3）に取られたりなど技術面や介入のスピードで溝口（法政3）の方が勝っていた。とはいえ、話の理解や話している内容には正当性や妥当性が感じられ十分対抗できる手段はあると思うのでアッセンブリーでの活躍に期待している。

（余談だが、日本語の文字を並べた論拠をテーブルで提示するのは英語で行う議論としていかななものかと感じた。）

3 位 塚越（青学3）

話の切り口を作るきっかけを評価し3位とした。巧みな Q などテーブル内に出てきた話に対して良質な情報を引き出すきっかけや話の扱い方を決めるきっかけになる介入をしていたがあくまでやっていたことはきっかけ作りだけにとどまってしまうその介入を利用してテーブルを動かしたのは主に溝口（法政3）であった。いい着眼点であり実際塚越（青学

3) が引き出した情報から話の終息に向かっていっただけに勿体ないと感じジャッジ中ムズムズしたものである。アッセンではきっかけ作りだけでなく自分の力で最後まで話を持っていき議論を作っていってもらいたい。

4 位 石橋 (明学 3)

自分のアイデアや話の進め方の提示など議論における積極性を評価し 4 位とした。発言数や積極性は見られたが発言の内容や必要性がテーブルに浸透していないことや議論の理解をテーブルに共有できていない又は自分自身の理解がテーブルに追い付いていないため周りを巻き込むことができず突拍子もない介入をする印象を多く受けた。さじ加減が難しいところではあるがもう少し空気を読む立ち回りをすることや、テーブルの他の人達のこと (主に話の理解の仕方や理解の速さなど) を考えそれに合わせた介入をしテンポを合わせるなどする必要があったと感じた。これからの成長次第ではまだ未知数な所が多いと感じたのでアッセンに向けては上手く周りを巻き込み自分がテーブルの空気を作る側になれるように頑張ってもらいたい。

5 位 能戸 (立教 3)

下吉 (立教 3) と比べ介入量に差が出たため 5 位とした。最後の最後まで自分のできることをやる姿勢に感動した。話の種を蒔いてはいたので今後は自分の力で周りを巻き込めるように、そしてよりはやく自分の話をする時間に持っていき自分の話にテーブルとしての答えを出せるように尽力してほしい。アッセンブリーに向けてさらなる躍進を期待している。

6 位 下吉 (立教 3)

praca で自身の obj を出すまで発言をしていなかったのが 6 位とした。オピニオンプレゼンターを決める際磯貝に手を挙げた後からプラカで自身のアイデアを出すまでは発言どころか微動だりしなかった様はまるでイースター島のモアイ像のようで心配になったレベルである。4th テーブルで見せていた印象だとやれることはまだあるテーブルだったと思うので、アッセンブリーではテーブルでもっと自分のやってきたことや思いついたことをアピールしてもらいたい。

③全体へ

和やかに雰囲気がいいテーブルでジャッジしていてとても気持ち良かったです。しかし、初盤からコンパリソンを視野に含めた意識が共有されていたように思えたため、結果として一つもロジックを検証できなかったことは非常に残念な点でした。

本テーブルではセオリーに従い、意見を先に流す提案が何度も見かけられましたが、セオリー

とは《議論を効率よく進める》ためにあることを再認識し、今回の反省点を改善していただきたいです。各々のスキルの高さは充分あると感じるので、さらなる高みを目指し努力を重ねたアッセンでの「表現」に期待しています！！お疲れ様！！（岩崎）

議論を通して遮りあいなどがほとんどなく最終的には全員がしっかり介入し参加してお互いを尊重しあったいいテーブルであったと感じました。1位の溝口（法政3）と2位磯貝（立教3）の2トップのテーブルではあったが他のメンバーにもまだまだやれることはあったと思うしこれからのプレバ次第でもっと上へいける可能性は全然あると思うのでアッセンに向けて諦めず頑張ってもらいたいです。（渡辺）